

---

# 吸血鬼になろう！

マッシュ北村

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

吸血鬼になろう！

### 【Zコード】

Z50730

### 【作者名】

マッシュ北村

### 【あらすじ】

天使に吸血鬼にされた青年がコンティニュー無限で死にまくるラックコメディ…「メディ？」

## 一話 吸血鬼になりました

本日は『吸血鬼になろう』を『』利用頂き、誠にありがとうございました。

「え、いきなり何これ?しかも、自分が文字?全く意味がわからな  
いんですけど」

貴方のよつな底辺を這いずりまわる蛆虫が、わたくしを見ますと発  
狂いたしますので、テキストデータのみにて、お送りいたします。

「えー…本氣で意味わからないです。私、いつの間にか邪神の生け  
贊にでもされたんでしょうか?」

わたくし、『吸血鬼になろう』の案内役を勤めさせて頂く、天使で  
『』ぞこます。

「……天使って見たら発狂する物なんですか

貴方のよつに神聖さの欠片も無い存在では、わたくし共を見ると淨  
化され、脳が焼き切れてしまします。

「いや、私は確かに平凡な一般男子ですけど、そこまで言われる程  
じゃないと思います」

そこを説明するついでに『吸血鬼になろう』の企画説明を致しまし  
よ。

まず我らが神がこう仰られました。

【暇潰しに下界調べてたら、神聖さの欠片も無い天然の吸血鬼みたいな奴見つけた（笑）何か面白そうだし、吸血鬼にしようぜ（爆）】

「（爆）とか（笑）とかちょいちょいムカつきますね、神様」

わたくしも苦労しております。

それはともかく貴方のために我らが神は試練を『える事に致しました。

貴方視点の現代日本で吸血鬼になつて頂きます。

神の愛に感謝してくださいませ。

「……ツツコミニ所しか見つからんんですけど、質問いいですか？」

許可します。

「吸血鬼って現代日本にいるんですか？」

いる訳ないじゃないですか。ファンタジーじゃないんですから。

「そのファンタジーな存在になれと言われている相手に言つ事では無いですよね」

質問はもうありませんね。

それでは良き吸血鬼ライフを。

「え、そんな訳な」

1 day 4 / 21 06:30

……何かおかしな夢を見ました。

吸血鬼になれ、とかいきなり言われて天使と名乗るテキストデータに……大学に入学したばかりだと言うのに、再びあの黒歴史時代が蘇ろうというのでしょうか。

「静まれ、私の邪氣眼……！」

口に出すとあの頃の傷口が改めて抉られますね……！

私はもうあの頃とは違ははずです。

この四畳半のアパート。一国一城の主となつた私は厨一病を患つている場合では無いのです。

さあ、一日は始まつたばかり。

今日も一日、頑張りましょう。

そつ氣合いを入れながら、私は閉め切つていたカーテンを開け

おかえりなさいませ。

「…………」

おや、余りの痛みに精神が焼き切れたようですね。仕方ありません。

！

「痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い痛い……」ってあれ  
？」

おかえりなさいませ。

「ただいま帰りました……って何なんですか、あれは！？」

吸血鬼が太陽の光に当たつたら、灰になるところのは古今東西変わ  
らぬ話だと思いますが。

「いや、現実だと思はず無いじゃないですか……」

「これも神の試練です。

一般的にイメージされる吸血鬼の弱点は全てあると思つてください。

「え、じゃあお米が落ちたら全て数えなければいけないんですか？」

「？」

なかなか一般的とは言えないマニアックな発言ですが、お望みとあらばわたくしの権限で追加致しましょうか？

「いえ、結構です……え、じゃあ私は何が出来るんでしょう。蝙蝠や霧になれたりするんですか？」

それについては神様よりお言葉を頂いております。

【飽きるまで、「コンティニアード無限にしてやる代わりにレベルが上がらないと何も出来ない仕様にしておいた】

「ゆとり世代ですか！？ゲーム脳ですか！？」

.....

「何で無言なんですか！？」

それでは良き吸血鬼ライフを。

「責任者を呼べー！」

1 day 4 / 21 20 : 00

リアリティのやたらある夢。……いや、太陽に焼かれるあの痛みが夢や厨二病の妄想のはずはありません。

アルミホイルを噛んでしまった感覚を数万倍にしたような……まあこれは一度、焼き殺されてみなければわからない感覚でしょうね。理解して共感してくれる人は全て死んでいますが。

とにかく一度とあの死に方だけはごめんです。

時間を確認すれば、田はとつくに落ちたはずの夜の八時。  
……どうしても、また焼かれるのはごめんです。

現実逃避かもしだせんが、家で大人しくしてしまおう。  
幸い明日までくらいの食料はあります。

明日まで考えれば、何かいいアイディアが浮かぶかもしれません！

そうと決めれば、まずはお腹が空いた事ですし、腹拘えにカツプラーメンでも食べましょう。

お湯を沸かし、三分待つて頂きま。……ほかほかのラーメンを口に運ぼうとしても、口に入れたくありません。

例えるなら、下水にいた生きたネズミを口に入れるような酷い抵抗感があります。

まさか……血を飲まねばいけないんですか？  
吸血鬼として一番、有名な特性。

『吸血する鬼』

まさかまさかまさか。

今まで私は変わっているとは言われて来ましたが、他人の血を飲みたいと思つた事なんて一度もありませんよ。  
当たり前じやないですか、人の血ですよ。

ブラッドオレンジなら好きですけど、他人の血なんて……飲みたくない仕方ないです。

こう、何て言うんですかね？  
ダイエットしている女の子がケーキの事を考えていたら、凄くケーキが食べたくなったみたいな感じでしょうか。

「人の血なんて飲みたくないです」

そう、口に出すと自分でそれが嘘だとはつきつわかります。

「人の血が飲みたいです」

うん、しつくり来ます。

私は人の血が飲みたいです。

そんな事を考えていたら、いつの間にか、暗い夜道を歩いていまし

た。

携帯で時間を確認すれば、夜の九時。

安さの代わりに多大な不便さ。私の住むアパートの周りは日が落ちるとあつとう間に人影が無くなります。

逆に無い方がすつきりするくらいの街灯は本当に住宅街かと思ってしまいますね。

ええ、何故、ここに私がいるのか。薄々はわかつています。

「こんばんは」

「あ、こんばんは。びうしたんですか、こんな場所で」

いつも顔を合わせれば、にこやかに挨拶をしてくれる名前を知らない女子大生の彼女。

今日も暗い夜道だと呟つのに、彼女の笑顔は輝いて見えます。

「はい、ちょっと用事がありまして」

ゆつくりと、彼女に警戒されないようの一歩ずつ歩み寄る。相互理解は一歩ずつ歩み寄るのが大事ですね。

なのに彼女は一歩ずつ後ろに下がっていきます。

「どうしたんですか?」

「え、いえ……普段、夜道で会つたら、わざと距離を離して歩いてくれるのに、びうして真つ直ぐ私の所に歩いてくるのかなって……」

ふむ、なるほど。

男子たる者、女性を脅えさせてはいけませんね。

ですから普段は女性が夜道で歩いていたら、なるべく遠くを歩くようになります。

しかし、後ろから女性を追いつ形になつた時、追い抜くべきか、距離を取るべきか。  
迷いますよね。

「I Love youを何て訳しますか？」

「え、愛してるとかですか？」

彼女は普段とは違う私の様子に怯え、今の回答で……そういう事がもしかれない、と思つてくれたのか足を止めてくれます。

「違いますよ。『月が綺麗ですね』こう訳すのです

夜は吸血鬼の時間。

信じてくれた彼女を裏切り、私は彼女に襲いかかります。

悲鳴を上げ、暴れる彼女の首筋に思いつきり噛み付くと……よくあ

る吸血鬼の牙は私にはありませんからね。

それでも、私の口の中に広がる血の味。

言葉にすれば全てが陳腐になるだらう、これが手に入るのなら、私の全てと交換してもいい。

そう心から思える存在。

ありがとうございます、と彼女に感謝する。

こんな極上の美味を私にくれるなんて。

もはや我を忘れ、血管の隅々まで、意地汚く食べ終わった皿を舐める子供のように食つているとある事に気付きます。

「防犯ベルが鳴っています……」

それどころではありません。

周りに目を向ければ、三人の警官が何かを叫んでいます。

それはそうでしょう。

法治国家日本の町中で女性の血を貪る男がいたら、当たり前のよう  
に警察が来ます。

血を吸い尽くした、もう動かない彼女に感謝をしながら口を離しました。

ああ、まだ三人から血を飲めるんですね……！

あの美味をまた味わえるという期待感と共に私は警官に襲いかかり

……

三人がかりでボコボコにされるのでした。

## 一話 吸血鬼になりました（後書き）

書いていて方向性が見えませんが、楽しんで頂けたら嬉しいです。  
是非、評価や感想をお待ちしています。

— 話 — 一人目いつちや こまつた（前書き）

「JRの匂をターゲットにした話なんでしょうか、これ。

## 一話 一人目いつちゃいました

「血いいいいいい！血を寄越せえええええ……！」

また精神崩壊ですか。忙しい人ですね……！

「…………逮捕されてから、血は飲めないし、ご飯は食べられないし……吸血鬼も餓死するんですね……」

見ていて、ちょっとびり面白かったですよ。

「ちくしょう、何なのこのサディスト！？その調子で私を人の血を吸つても罪悪感を感じない吸血鬼にしたんですね！」

いえ、貴方の設定で変えらているのは身体だけです。心は特に弄つていません。

「え、私つてナチュラルに吸血鬼みたいな趣味あつたんですか」

貴方が『吸血鬼になろう』の企画に選ばれたのは、その心の有り様が原因です。

他に問題が無いのに何故かこれだけが出来ない、という人間がいますね。

「ああ、友達にいつもお洒落で美人なのに掃除が出来ない子がいます」

子供を放置してもパチンコにのめり込む親や酒がやめられない人のように、貴方は執着した物に対しても全ての常識を振り切つて行きま

す。

ストッパーが存在していないのです。

「えー…今までそんな事、全く無かつたんですけど」

高校生の頃、あるアニメにハマリ、やらかした事を忘れたのですか？

「厨一病で私は吸血鬼としての精神を獲得したんですか！？」

普通は授業中に「くつ、冷徹なる地獄の痛み（「キューストペイント」）の手の者か！皆を巻き込む訳には行かない…………」つちだ、来い！」と叫んで、教室を飛び出したりはしません。あとラブレターもなかなか……

「やめてくださいよ！？餓死よりきつい！」

「君のイカロスの翼を溶かして、僕の大地と一緒に生きて欲しいのさ」ですか。

なかなか意味がわかりませんね。

欲しいのさ、の部分が更に痛々しいです。

「冷静に論評しあがつて…いつも殺せよ！私は丸腰だぞ！」

どうせまたすぐに死ぬから問題無いでしょう。

「それが問題だと思うのですが…吸血鬼になつても特に力が強くなれる訳じゃないんですね。警察官とかに普通にボコボコにされましたし

まだレベルが足りません。

今は【キレた中学生】並の力ですね。

「どうまで厨一病引っ張るんですか。土下座したら許してくれますか」

それはともかく一人の血を吸つた事により、レベルがアップしました。

「おお、凄い」

吸血鬼としての格が上がり、風格が出ました。  
貴方は街を歩いていても不良に絡まれにくくなります。  
やつたね。

「…………他には」

RPGでもレベルが一つ上がったからと書いて、複数の魔法を覚えないでしきう。

そういう事です。

「何の役に立つんだ、それ…………しかも、絡まれにくくなるだけで絶対に絡まれない訳じゃないんですね…………」

武くんクラスには絡れます。むしろ、喜んで絡んできます。

「逆により強いのが来るじゃないですか！？大体、天使のくせにサブカルチャー詳しいですね！」

それほどでもあります。

さて、質問はありませんね。受付ません。

「いや、実はほひ、あれですよ。質問が浮かばない詫びじゃー。」

さて、きちんとこれから事を考えなければいけません。  
いきなり適当に襲いかかった所で警察に逮捕されてしまいまーし、  
場合によつては返り討ちです。  
……吸血鬼なんですね、私?

1 day 4 / 21 20:00

吸血鬼が普通の警察に逮捕される事を恐れなきやいけないとは…世知辛い世の中です。

私が普通の人間なら、ばしばし逮捕してもらいたいですが。

とりあえず血を吸わないという選択肢はあり得ません。

肉体的にも飲まねば理性を失いますし、精神的にも… またあの美酒を味わいたいです。

前回、餓死した分、更に精神的には飢えています。

こういう所が私のストッパーが無いという由縁なのでしょうか？

まあどうでもいいですね。

まずは再び、あの女子大生を襲わせてもらいましょう。

考えてみれば、周りに人のいない夜道を歩く力の弱い女性というパターンは貴重なはずです。

上手くやれば、あっさり行けるはずです。

ああ…生の実感です。

私はこのために生きています。 そう今なら言えますね。

普段の私がするように相手を怖がらせない距離を取つて、通り過ぎ、背中を向けた相手をがぶり。

やり口は汚いですが、人間だって多人数での狩りや罠など汚い手を使います。

武士の嘘は武略ですね。 武士ではないですが。

さて、飲み終わった死体からは離れましたし、いきなり即逮捕という事は無いはずです。

……もう一人くらい行っちゃいます？

飲み屋帰りでしょつかね。

「つーい、ひつぐー！」

お約束な台詞を言いながら千鳥足で歩くスース姿のおじさん。見た目的には食欲はそそられませんが、ひょっとしたらアンノウのようになんかは非常に美味しいかもしません。と、いう事でがぶり。

……加齢臭と酒の臭いが凄いです。

ぐえつと吐きそうになりながらも、血を……美味しく無いですね。そう言えど、吸血鬼の好物は処女の血でしたか。

これは失敗しました。

手を付けた食べ物を残すなどといつはしたない真似はせずに、きちんと飲み干しますが。

ん、スースから写真が落ちましたね……恐らくお子さんなのか、高校生くらいの娘さんと奥さんが写っています。

財布に入っていた免許証で住所を確認して……ああ、行きましょう！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5073o/>

---

吸血鬼になろう！

2010年10月30日18時42分発行